

みんなで作る

森ものがたい

2020年6月28日発行 第134号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355

福岡市南区大字松原855-4

油山市民の森管理事務所内

TEL: 092-871-6969

FAX: 092-801-1463

<http://www.morikai.org/>

mail: aburayama@morikai.org



<3/22 アカマツ林作業>

も	表紙	1
く	活動ノート(3/22,4/5,特別活動 2/2,2/11)	2~4
じ	特集「アカマツ林幼木調査」	5~6
	油山のお仕事日記「#すいとーよ油山」	7
	「世話役から」(アカマツ林)	7
	年度末うん・えー会報告(3/7)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



3月22日(日)
アカマツ林作業
9:30~15:00



◆参加者：松雪、国広、静間、鎌田、山川、早川(奈、遼、千) 計8名

◆内容：天気予報では昼頃から雨ということで、どうなるかと不安な一日の始まりでしたが、時たま薄日もさす曇り空でしたので、予定通りに作業を始めることとしました。今日の参加者は二人の可愛い天使を含めて8名。そこで作業班を大径木の除伐を行う班と、密集して窮屈そうにしているアカマツ幼木の間伐班とに分かれて作業を行いました。除伐班は、まずはD地区の直径35cm弱のヤマモモの伐倒から取り掛かりました。久しぶりの大径木の伐倒で、体力的には結構きつい作業となりましたが、掛かり木となるような木もなかったため、ロープ掛けもせず、きれい



なツルが残る教科書的な伐倒をすることができました。午後からは、E地区の主のように聳えている、直径40cm弱のタブノキの伐倒に着手しました。この木は大きいだけでなく、高さ3m程度の崖の肩部に立っているため、足場を確保しながらノコを使うのが難しい、本当にきつい作業となりました。それでも、経験豊富なメンバーのおかげで、ほぼ予定通りの安全かつきれいな伐倒ができました。幼木の間伐は早川ファミリーにお任せし、まずは最も密集が進んで、ヤブのようになっていたD地区遊歩道横の間伐から始めました。小さい子供さんが中心になっていたのですが、手間取るかなと思っていたのですが、そんな心配をよそに午前中でD地区の間伐は終了。そこで、午後からは急遽E~F地区の幼木についても間伐をしてもらいました。結局、計13本の幼木の間伐することができ、かなりすっきりした幼木エリアができました。今日の除間伐で、A地区からF地区まで全体が見通せる、アカマツ林らしい姿になりつつあります。まだ、今後伐らなければならない広葉樹は残っていますが、来年度中には第一段階の目標であるアカマツの単相林にすることが出来そうです。今日の伐倒は大きいというだけでなく、地形的にも厳しい作業となりましたが、ヒヤリハットのこともなく安全に活動を終えることができました。会員の伐倒技術が、徐々に向上していることを実感した次第です。今後はこの技術の継承をどうするかとい

うのが課題だと思います。また、除伐が進み、樹木の密集度が低くなると、掛かり木の心配をあまりしないで樹の重心方向に切り倒せるようになり、より一層安全性が高まることを実感することができました。

【ふりかえりより】

◆今年度最後の森会の活動でした。大きなタブノキとヤマモモを伐採しました。天気が気になりましたが、最後まで大きな天候のくずれも無く終えることができました。(山川)

◆常緑樹の大きなものを除いたら、ずいぶん見晴らしが良くなりました。今後はシダ対策が大変です。頑張って整備作業を続けましょう。(静間)

4月5日(日)
アカマツ林作業
9:30~14:30



◆参加者：松雪、静間、鎌田、砂田 計4名

◆内容：市民の森の活動でも、新型コロナウイルス対策として「三密を避ける」などの感染防止対策を行うとともに、参加者数が最大9名と決められたため、今回の作業は事前申込制としました。今日の作業は、2~3年程度手を付けなかったためシダなどでジャングル状になっていたE・F地区斜面のシ

ダ刈りと、今年 1・3 月の伐倒作業の結果、D 地区ヤード内に大量に残積しているクスノキやタブノキなどの残材処理です。シダ刈りは、E 地区と F 地区に分かれ、刈込はさみでコツコツと進めていきましたが、立っているのがやっとなんて急斜面があったため、すべてを刈ることはできませんでした。ただ、遊歩道沿いは見違えるほどきれいになり、下の遊歩道がすっきり見えるようになりました。一方、D 地区ヤードでの材処理は、3 本の大木(直径 25～40cm 程度)が枝葉が付いたまま折り重なっており、また足場の極めて悪い急斜面だったため、始めはどこから手を付けて良いのかと悩む状態でした。それでも、端っこから徐々に入っていけるスペースを作りながら、チェーンソーで 1 本 1 本枝を落としていきました。作業に当たっては、どこをどう切っていたのが良いかを二人で相談し、かつ切っている時の危険の有無を監視してもらうこととしました。ところが、チェーンソーが昼頃故障してしまい、午後からは手ノコでの作業となったため、すべての材処理には至りませんでした。ただ、ヤード内の目立つ残材はほとんど処理することができました。今回の教訓として、材処理は 1 本ごと伐倒直後に行うべきということを実感した次第です。

【ふりかえりより】

- ・シダ萌芽枝の作業がさすが



しい天気の中、きれいにできました。(鎌田)

・初めてアカマツ林での作業。シダ刈りの作業、天気にも恵まれたが大変でした。(砂田)

特別活動報告

2月2日(日)

シイタケ椿木づくり

9:30~16:00



◆参加者：静間、鎌田、国広、織田、山川、長澤、平野家 5 名、古寺 計 12 名

◆内容：今日はチェーンソーを使用できるのが世話役の静間だけだったので、助役の鎌田さんに世話役の仕事をお任せしました。昨年 8 月から林業現場での安全強化の一環として、チェーンソー使用者の防護装備着用が義務付けられたことを受けて、森会でもうん・えー会で導入を決めました。今回がデビューとなりました。結構重たいし、装着が面倒でしたが、安心感はあるし、会員からはプロみたいだとの感想も頂きました。椿木用に伐採してあったのは A 地区の湿地周辺と休憩小屋の北側だったので、二手に分かれて先ず枝を落とす作業から始めました。その間チェーンソーの調整を済まして、枝落としの援助から入っていきましました。枝落としの終わった材から、測量棒を使って玉切りの場所に印しを付けていって貰い、順次チェーンソーで切っていました。駒打ち行事では玉切り体験もして貰うとのことで、1.8m の材を依頼されていたのですが、これが大変重くて運

搬には往生しました。午後になると、チェーンソーの切れ味が落ちてきたので、目立てをするものの午前程の切れ味までには戻らなかったもので、少し切り残しが出てしまいました。これらは次回の特別活動で処理したいと思います。最後に枝を集めて薪を作って作業を終りました。平野さんが草木染めの実験に使うヤブツバキを 2 本伐採、今後灰を作るとのことです。今後の進捗が楽しみです。子供達は午後から秘密基地づくりに勤しんでいました。作業の持越しがあったのは残念でしたが、椿木が無事確保できてホッとしました。冬季は一般の入場者が少ないので、特別活動を週末に実施して会員が参加しやすくするのもいいかと思いました。今回の草木染めのように、特別活動は定例活動以外に会員のやってみたいことが出来る場としても今後発展していけばいいなと思った一日でした。

【ふりかえりより】

- ・人数も揃い予定通りの作業が出来良かった。木の運搬は重量により無理せずに 2 人、3 人での作業が必要ですね。(国広)
- ・午前は、つばきの木をきりました。午後からは秘密基地をつくりました。(平野ゆい子)



特別活動報告

2月11日(火)

椿灰づくり

9:30~16:00



◆参加者：平野家5名、早川家3名、杉尾家4名 計12名

◆内容：昨年の秋に草木染めをした際に、センターの井上さんから「媒染液に樅の生木を燃やした灰を使うと、桜や梅の枝を使った草木染めでピンクの染め物ができる。」と伺い、カブ森に生えている樅を伐採して灰を作ったら出来るのではと思いつきました。事前準備として、2月2日の特別活動日午前中に平野家でカブ森の樅の木を2本伐採し、もともと伐採して放置してあった樅の木1本も含め3本分を枝葉も含め東屋裏に保管しておきました。11日当日に東屋裏から樅の木をキャンプ場に運び、枝葉は剪定ばさみを使い、他はノコギリで適当な長さにして、ナタで細かくし、センター長のご指導の下、生木を燃やしました。火おこしには杉の葉を使いましたが、その後はまず、乾いた細い樅の枝を入れ火が大きくなると葉を重ねていって水分を飛ばしつつ、火の大きさを安定させます。その後は木を積み重ねつつ燃やしていきました。また、予想はしていましたが生木を燃やすと煙がものすごく、キャンプ場を他の団体と共有することを避けることができ良かったです。計画通り11時前には火を起こし始めましたが、火が安定してどんどん木をくべるようになったのが12時頃で、火の勢いを保つために大人はゆっくり昼食も取れずにひたすらノコギリとナタを使い薪を量産することになりま

した。子どもも小学生以上はノコギリ、ナタを使ってかなり働いてくれて、道具の扱いに慣れたようでした。また、未就学児3人は杉尾さんのご主人が面倒をみてくれ、他の大人は作業に集中できました。14時30分頃には撤収作業に入る予定でしたが、灰にするためにギリギリまで放置するため、キャンプ場の使用時間ぎりぎりの16時ころまで待機しました。熱い灰をセンターに運ぶためにセンターから大きな鍋をかり、センターで灰に水を入れて鎮火しました。どのように灰を保管するかを井上さんと相談する必要がありますが、結果として沢山の樅灰を作ることができたので、次の草木染めの活動時にはピンクの染め物にも挑戦できそうです。

【考察】今回、樅の灰を作るにあたって調べてみると、「生木」を燃やして灰を作る。とあり、乾燥した木ではダメなのかな～？と謎でしたが、成分の問題ではなく扱いやすさの差なのでは？と思いました。樅の木をノコギリやナタを使い小さくする過程で、生木の方が柔らかいので作業がしやすかったです。1本伐採後に放置された木を切るときは、もともと硬い樅の木がもっと硬くなっていて、かなりの労力を使いました。一方、燃やす過程では放置された木を先に燃やし、火の勢いがついたら生木の枝葉を投入しないと火力を保ったまま燃やし続けることが難しかったです。灰にするまで燃やし続けることを考えると、樅の木の伐採→燃やしやすいくさまで切っておき保管。かまどを2個以上使いひたすら燃やすと工程を分けた方がいいのかもしれない。と思いました。

【反省点】今回の活動は大人の数より子どもの数が多かった

ので安全面の配慮が行き届かない部分がありました。使う道具ごとに場所を分け、小学生以上は剪定ばさみ、ノコギリをベルトにつけて管理してもらいましたが、大人が薪づくりに忙殺された午後に、自分のノコギリを使って木を切っていて途中で他の子に交代し、その後道具を放置する。といった場面が散見され、昼食時の道具確認の他に2回ほど再確認を実施しました。日頃の活動時に行っている道具確認や数を数えることなどは、安全のためにどんな意味があるのかを子どもには折に触れて伝える必要を感じました。子どもは一度言っただけでは忘れる。というのを思い出しました。

【ふりかえりより】

- よいお天気になって楽しく焚火ができました。生木が燃えるか心配でしたが所長さんのご指導もあってしっかりと燃えてよかったです。(早川なな)
- 最初は今日最後の灰まではたどりつけないと思っていたけど、皆のがんばりでたくさんの灰がとれて本当にうれしかったです。(杉尾さあな)
- 午前中はいっぱい木を切ったり火のばんをしました。午後はねねちゃんとおとうさんとあそびました。(平野ゆいこ)



新型コロナウイルス感染拡大防止のため、森を育てる会では、4/18,5/17,5/31,6/14の活動を中止しました。

特集「アカマツ林幼木調査」

(アカマツ林調査世話役 中嶋 宏海)

アカマツ林の更新において次世代を担うアカマツ幼木の生育状況を把握するとともに、整備作業の効果を測り、長期的な保全計画に役立てることを目的に、本年も次の2つの調査を行いました。

1 地かき処理の有無による比較調査

アカマツ林を維持する上で必要とされる「地かき」作業（地表の落ち葉などが微生物によって分解されてできた栄養分の多い土の層を取り除く作業）の効果を測るため、地かき処理を行った区画と、行っていない区画を設け、実生幼木の発芽や定着状況を平成28年から毎年記録しています。

今回は、令和2年1月12日（日）にアカマツ林整備作業の活動と並行して2名で調査を行いました。地かき処理の有無により分けられた2つの方形区（2m×2m）で、まずは幼木が確認できるよう区画内の枝葉やシダ類などを取り除きました。

毎年同様ですが、地かきをした方形区ではほとんど他の植物が入り込んでいません。



【方形区 A（地かき処理有り）】



【方形区 B（地かき処理無し）】

これは、地かきの有無により土壌の栄養分や水分量が異なり、シダなど他の植物が地かき処理していない方の環境を好んで生育しているのだと考えられます。地かきは大変な作業ではありますが、定期的に行うことで、その後の下草刈り作業の軽減効果が期待できそうです。

枝葉やシダ類などを取り除いた後は、それぞれの区画内の実生幼木の確認と高さの計測を行いました。各個体は個別に番号を付けて管理しており、前年以前から生存しているものの確認と、今年から新たに出現したものの記録を行いました。

年々確認する個体数が増えてきているので大変です。当初半日で終わる予定でしたが、終日かかってしまいました。また、斜面で長時間しゃがんで行う作業も参加者の負担となっていましたので、次回以降の調査では、作業負担の軽減を図りながら実施したいと思います。

今回の調査の結果、新規確認個体は方形区 A（地かき処理有り）で22本、方形区 B（地かき処理無し）で3本でした。各個体の出現年ごとの状況を以下の表1にまとめています。

表1 出現年別の個体残存数と平均高さ

■方形区A（地かき有り）

出現年	当初(新規)個体数	R2年残存数	残存率	平均高さ
H28	13	9	69%	6.9cm
H29	25	18	72%	8.0cm
H30	38	29	76%	6.5cm
H31	22	17	77%	5.2cm
R2	22	22	-	4.0cm
計	120	95		
平均	24	19	74%	

■方形区B（地かき無し）

出現年	当初(新規)個体数	R02残存数	残存率	平均高さ
H28	11	1	9%	9.0cm
H29	3	1	33%	7.5cm
H30	13	10	77%	7.8cm
H31	11	3	27%	7.5cm
R2	3	3	-	4.7cm
計	41	18		
平均	8	4	37%	

5年間の平均で見ても、新規確認個体数は地かき有りの方が地かき無しの方と比べて約3倍多いことがわかります。また、今回の調査時点で枯死や消失しておらず生存している個体の割合（残存率）は、地かき有りの平均が74%であるのに対して、地か

き無しでは37%と低い割合になっており、地かきの有無により明らかな差がみられました。

一方、地かき無しのもは母数が少ないので一概には言えませんが、残存個体の平均の高さについては、双方に差はなく、むしろ地かき無しの方が良いようにも見えます。この部分についてはもう少し観察を続ける必要があります。



2 A～F各地区幼木のサンプリング調査

アカマツ林では次世代のアカマツ成木の育成が一つの課題となっていることから、平成29年にA～F各地区の樹高1M前後の幼木の中から、立地条件の異なる複数の幼木をサンプリング（抽出）し、生育状況を把握するため、樹高や樹勢などを毎年継続して記録しています。

1の調査と同日作業を予定していましたが、時間が足りなくなってしまったので、令和2年2月23日（日）の午前中に日を改めて調査を行い、2名体制で計23本の幼木について樹高や枝葉の状態などを計測して記録していきました。一年前の調査から枯死や伐採等で消失している個体もなく、全体的に順調に成長していることを確認できました。



【樹高の調査の様子】

今回の調査の結果は、以下の表2のとおりです。幼木といえども樹齢11年の個体は樹高3mを超えており、計測も一苦労です。その他の個体の樹勢もよく元気に育っているようです。

また、半径1mの他の幼木の本数（幼木密度）を当初と比較してみると、減少しているものが多いのがわかります。これまでに人為的に間引くことは行っていないため、個体が成長するにつれて劣勢木などが自然に淘汰されていっているものと思われます。

近年、除伐等の整備作業が進み、明るく見通しの良い林になってきたことから、日照度の改善も見られました。ただし、F地区の南側についてはまだ常緑樹が残っている箇所があり、今後、日照の改善のための整備作業が必要と思われます。

表2 令和2年サンプリング個体調査結果表

No.	地区	樹齢 (年)	樹高 (m)	樹勢	幼木密度 (本/r=1m)		日照度	
					今回 (R2年)	当初 (H29年)	今回 (R2年)	当初 (H29年)
1	A	11	3.50	良	6	9	中	中
2	A	10	1.80	良	4	5	良	中
3	A	9	1.75	良	0	5	良	良
4	A	11	2.55	良	4	5	中	中
5	A	8	0.90	良	1	5	中	中
6	A	9	1.45	中	8	8	良	中
7	B	6	0.45	中	3	3	中	中
8	B	8	1.55	良	1	3	良	良
9	B	9	1.20	良	1	4	中	中
10	C	8	1.25	中	0	1	中	中
11	C	8	1.50	良	1	3	中	中
12	C	4	0.85	中	6	6	良	良
13	D	10	3.40	良	0	2	良	良
14	D	8	2.50	良	0	3	良	良
15	D	-	2.80	良	0	-	中	-
16	D	10	2.75	良	1	2	良	良
17	D	11	3.00	良	5	8	良	良
18	E	9	1.85	良	3	7	良	中
19	E	-	1.10	良	2	-	良	-
20	E	4	1.10	中	3	8	中	良
21	F	10	1.10	劣	4	4	悪	悪
22	F	11	3.05	良	2	3	中	良
23	F	-	1.60	良	2	-	中	-

年々大きくなる幼木達の計測は困難さも伴いますが、元気に育っているのを見ると今後のアカマツ林も安泰だなあとホッとします。

令和2年度は幼木調査単独で活動日を組んでいます。日頃の整備作業の成果といえる幼木の成長を実感することができる良い機会ですので、ぜひご参加ください。



油山のお仕事日記

「#すいとーよ油山」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

新型コロナウイルス感染症により、被害を被っているみなさまにお見舞い申し上げます。一刻も早い日常の回復を祈るところですが、新しい日常へ変化対応していくことの重要性も、今、社会に広がっています。油山市民の森においても、新しい施設の在り方を模索しているところです。

市民の森は屋外中心の施設なので、「密」に対して、比較的大きなキャパシティをもって運用できます。せいぜい 200 台の駐車場が満車になったところで、広大な油山が人口過密状態になるとは考えにくいです。だったらほっといてもいいか、というわけでもなく、例えば中央広場や油山山頂といったエリアは、季節、天候、時間帯によって過密状態になります。登山など、人の動線や利用傾向がパターン化している場面では、広大な施設においても一時的に過密状態を作る場合があるのです。ほかに、天気の良い休日の午後に家族連れがにぎわう状態もやはり「利用のパターン化」です。

このような「パターン化」は、過密状態が云々というものもありますが、私は、施設をマンネリ化させる一側面とも考えています。例えば、水の森を歩くにしても、朝や夕方は浅い角度の日光が差し込み、とっても美しいです。水の森＝水遊びというパターンから外れたところに素晴らしい魅力がポロリと落ちている例です。キャンプ場では必ずしもお肉を焼く必要はなく、ほんの 1 時間、ちょちょいと焚火遊びをするという手もあります。雨音の楽しさや、厳冬の森の静けさも私は大好きです。新しい日常への変化対応は、必ずしも感染対策というだけではなく、パターン化された施設を新しい目で捉えなおし、これまでになかった魅力を作り出すチャンスでもあると思います。

現在、市民の森公式 Twitter と facebook で【#すいとーよ油山】という取り組みを行っています。施設のオフピーク情報とともに、スキマに転がっている魅力を発信するものです。つまり、【空いとーよ】&【好いとーよ】の発信です。皆様がご来園の際、スキマな魅力を見つけたら、【#すいとーよ油山】のハッシュタグを付けて SNS で発信してみませんか？あなただけのマニアックな情報を、ぜひ一緒にシェアしましょう(^_^)

「世話役から」

アカマツ林世話役 松雪清人

私が森のことを意識し始めたのは 30 年程前。当時、災害の仕事で山を這いずり回っている時、手



入れのされていない杉林での匍匐前進、100m 行くのに 30 分以上かかる竹林など、本当に森が荒れているなと実感した頃ではなかろうか。その頃、皆さんもご存じだと思うが東北の気仙沼市で、「森は海の恋人」という森の保全活動が行われていた。森と海はつながっており、森を守ることは海を守ることでもあるという考え方は、森・川・海を別々に考えがちな私には斬新だった。

「持続可能な開発」を目標としたリオ宣言(1992 年)がなされ、日本でも 1993 年に環境基本法が制定された。環境破壊の親玉のように言われてきた土木建設事業でも、「環境への配慮」が重要なお題目となり、私の仕事分野の一つである河川事業でも、「多自然型川づくり」など生態系を極力保全するやり方が取り入れられるようになった。その時に思い知ったのは、「環境にやさしい自然は人の手だけでまず作れない。我々ができるのは手を貸すだけで、半分以上は自然の営みに任せなさい」ということ。自然の営みや摂理にそぐわないやり方は最終的には失敗してしまうし、逆に自然を荒らしてしまうことすらある。

私が森会に初めて参加したのは、2007 年のアカマツ林での体験説明会。その時のアカマツ林の印象は、正直言って「これがアカマツ林、ホント？」と思い、「今後どういう森を目指しているのか」という質問をしたことを覚えている。その後、2014 年の旧五か年計画立案時からアカマツ林の世話役を仰せつかり、「どうすればアカマツ林(群落)を再生することができるのか」をいろいろ考えさせられた。

そこで、思い出したのが以前学んだ「景観生態学」。その詳細はここでは省かせて頂くが、アカマツ林に関連していえば、「アカマツの生育に適した環境を作らない限り、アカマツはいずれ広葉樹に駆逐され、照葉樹林へと遷移していく」ということとなる。そのため、整備方針は「広葉樹などを観察木などの形で残すといった二兎追うような整備はやめる」、「広葉樹を皆伐し、後は自然に任せる形で日当たりの良い斜面でのアカマツが生えてくるのを待つ」、そして夢として「松茸の採れる林」というシンプルなものとした。これまで育ってきた木を伐ってしまうことには反対もあろうかと思う。しかし、アカマツ林(群落)を再生させるのを基本目標とする限りは、まずは競争に弱いアカマツが生きやすい環境を作っておけるのが出発点だと考えている。現在、広葉樹を除去した斜面では幼木が一杯増えつつあり、整備の手ごたえを実感している昨今である。

年度末うん・え一会報告

2019年3月7日(土) 9:30~15:00

出席者：林、鎌田、松雪、静間、川上、中嶋、小川
(計7名)

1. 役割決定、資料確認

2. 12~3月活動報告 →詳細は会報第133号参照

3. 3月活動予定

3/22(日)アカマツ林作業(松雪)

4. 12~3月特別活動報告

- ・2/2(日)カブ森・椎茸滑木作り、草木染材集め(平野)
- ・2/11(火)草木染め木灰作り(平野)

5. 12~3月対外支援活動報告

1/10(金) 柏陵高校環境科学コース・油山自然研修(小川)
(参加：生徒39名、先生5名)

6. 2019年度経過報告 (2020年3月7日現在)

6-1 会員数 34 世帯52名

6-2 活動実績

年間活動 23回 参加者(総数214名、平均9.3名)
(2/23現在)

特別活動 3回 参加者(総数27名、平均9名)

対外支援活動2回 参加者(総数13名、平均6.5名)

6-3 「2019年度世話役活動の振り返り纏め」

報告(林) →詳細は配布資料参照

次世代の世話役をお願いしよう!!

指名があった会員は、ぜひ協力をお願いします。

6-4 会計経過報告(早川、小川) →予算消化は順調

7. 2020年度審議

7-1 役員関連 →規定により前年度役員の留任決定

7-2 会員関連 →会員登録案内(締切3/23)

7-3 活動関連

①日数、活動日、項目、内容等 →別途メール発送の
「2020年度 森を育てる会 活動予定」を参照し、日
程に組み入れて積極的に参加してください。

②世話役 →一部で新世話役を依頼・調整中。その他は
引き続き前年度の世話役に依頼。計画表提出3/17迄に。

7-4 ホームページについて

→全体の見直しを実施(担当-松雪) →更新箇所につ
いて各担当へ指示 →更新データを入力(担当-広報川上)

7-5 機械の導入

人力だけでは消化できず、機械を導入することとする
導入する機械：チェーンソー(玉切り、枝落し)、刈り
払い機(草刈) & 防具 →刈り払い機の購入を進める(1台)

・安全対策には万全を期し、必要な届出をすること

8. センター連絡事項

小川氏の担当が、センターを含む管理事務所全体に広が
った。電話：092-871-6969 (4/1~)

9. 発送作業

①会報第133号 ②世話役活動の振り返り纏め ③会員
登録案内文書・会費振込用紙

活動予定 (2020年7月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間：9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更に
なる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長
袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)
で参加ください。 必要な持ち物はいぼ付軍手・帽
子・タオル・弁当・飲物・おやつ・筆記用具の他、必
要に応じて着替え・雨具をご持参ください。

7月5日(日) (予備日7月11日(土))

カブトムシの森作業 草刈り

7月18日(土)~19日(日)

カブトムシの森昆虫調査

18日 18:00~ 夕食

20:00~ 21:30 ライトトラップ調査

<希望者は宿泊、会員外の参加は別途料金が必要>

19日 9:30~12:30

トラップ回収・同定とルート観察

19日 9:30~15:30

せせらぎ整備

カブトムシの森の沢沿いに草刈り、沢に入りながら
石や砂利を動かし、水遊び場を整備

8月2日(日) 削り馬体験会

削り馬を使って生木を加工し、オブジェ、日用品、
おもちゃ等の製作を楽しむ

8月16日(日) 木工教室

保全作業で伐採した材などを使って工作を行う

9月6日(日) うん・え一会 と備品管理

・うん・え一会

7~9月活動報告、10~12月活動予定、上半期
活動実績報告

・備品管理

鎌、剪定鋏、刈込バサミの研ぎ出し、備品管理台
帳の最新化

福岡市環境行動賞最優秀賞受賞のお知らせ
福岡市における環境の保全・創造に高い水準で貢献し、
顕著な功労・功績のあった団体に贈られる第10回福
岡市環境行動賞の最優秀賞を森会が受賞しました。

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊発行

編集担当：川上寛、西岡恵子、鎌田隆、静間純、

松雪清人 印刷担当：小川真樹
